

平成21年度学校経営報告書（定時制）

1 今年度の重点目標（学校経営目標）への取組と評価

(1) 学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。

ア 数年来の継続指導と学年数の減少で学校全体が落ち着いてきており、授業をする環境が整ってきた。しかし、個々をみると授業中に飲食をするあるいは携帯電話を使用する生徒も若干名おり、引き続き粘り強く指導をする必要がある。

イ 学期ごとに生徒全員の欠点解消を図ることを目標とし、指導を行ってきた。各学期における全員の欠点解消には至らなかったが、補習授業、追試に対して真摯に取り組む姿勢が見られた。

ウ 各教科において、中学校までの学習内容を含めた授業内容に取組み、基礎学力の定着に努めた。

(2) 職業理解の推進と生きる力の向上を目指す。

ア 生徒の職業意識が希薄のため、卒業までに進路が定まらない者が多い。このような現状から本年度から2年計画で進路に関することを校内研修のテーマに掲げ、計画的に取り組むことにした。本年度は勤労観・職業観の育成、労働に関する法的問題を主たる目標にして、3年生を中心にキャリアカウンセラーによる職業意識啓発講座2回、司法書士による労働に関する法律講座1回、民間企業経営者による進路講演会3回のほか、ヤングジョブステーションへの訪問を新たに実施した。結果として数字では表れていないが、生徒が真摯な態度で聞いていた様子から進路意識を高めるよい機会となった。来年度は、面接指導・求人票の見方等実践的なものを取り入れていきたい。

イ JOBフェアへの参加が、就職への意識を高めるよい機会となった。これを契機に、パソコンで高卒求人ウェブサイト等を調べるなど生徒の自主的取組が見られた。来年度は、時期を早め実施をしたい。

ウ 進路ガイダンスを昨年度の希望制から2部制に変え、1部では全員参加で講話を聴き2部では進路別の分科会とした。進路未定の生徒が多数いたため、早い時からの体系的な指導が必要である。

(3) 基本的な生活習慣を確立する。

ア LHRなどを利用して、個人面接を行い、生徒の実態把握に努めた。

イ 遅刻・欠席指導をとおして生徒の生活実態の掌握に努めるため、欠席・遅刻・早退カードを利用して指導を行った。また、欠席・遅刻の多い生徒には担任から始業前に連絡を取る対策も行った。これにより、欠席率・遅刻率・早退率が昨年に比べ減少した。特に遅刻率の大幅な減少が目立ち効果が見られた。

ウ 各学期末に面接日を設け、保護者面談を行い、学校、家庭及び職場における生徒の学習、生活等の様子を情報交換し、また指導を行った。また、各学期末以外にも必要に応じて保護者と連絡を取り、家庭との情報交換を行うことができ指導上有益であった。

エ 毎月、職員会議でHR担当が生徒の状況を報告し、指導内容について全教職員の意思統一を図った。これにより、分掌・教科の協力を得られて、早目に生徒への対応がとられるようになった。

(4) 規範意識を高め、社会性の向上を目指す。

ア 学校及び社会のルールへの遵守を徹底し、規範意識の向上を図るために、校内の巡視及び下校指導を当番制でおこない、生徒に問題行動がないように努めた。

イ 礼儀作法の一環として、地域の人材を活用して茶道教室を開催した。生徒の取り組みも良好で、非常に効果的であった。

ウ 保健指導に関する事柄と給食献立を掲載した保健だよりを毎月発行した。また、生徒の

発案したものを掲載することで、以前に比べ生徒の目に触れるようになった。

エ 防災教育の充実と地域防災訓練への参加を促し、防災に対する意識と地域社会の一員としての自覚を涵養することに努めた。9月に防災訓練を実施し、12月には地域防災への参加を指導したが、地域防災訓練への参加者が少なかったため、終業式後全校生徒に対し地域防災の必要性を説明した。

(5) 人間関係力を向上し、自立心の育成を目指す。

ア 学校行事、ホームルーム活動、部活動等に積極的に参加させ、集団の一員としての自覚を促し、人間関係の中で自己の確立を目指すことに努めた。特にHR活動ではLHRの内容を工夫し、全員が参加できるものを実施したことが人間関係の涵養に効果的であった。部活動では、部活動数の減少に伴い加入率も減少したが、活発に活動し年度当初予定していた大会にはすべて参加することができた。

イ 生徒会が積極的に学校行事（ルームマッチ、予餞会など）の企画・運営に取組み、生徒の主体的な参加が図られ、よい結果であった。次年度は、4年1クラスだけとなるため生徒会行事がクラス行事となるためホームルーム活動と調整をしながら活動をする。

ウ 精神的に不安定な生徒のカウンセリングを教員が行った。カウンセリングは個人的技量に頼ることが多い。教員全体で取り組めるようにしたい。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 基礎学力の確実な定着と職業理解を推進し、生きる力の向上を目指す。

ア 閉課程を迎える年度にあたり、生徒全員の卒業を目指しきめ細かな指導を行う。

イ 21年度実施した進路指導を生かし、22年度は早い時期から面接指導等実践的な指導に取り組み進路希望の実現を図る。

(2) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図り、社会性の向上を目指す。

ア 欠席・遅刻・早退カードを利用して、生徒の出席状況を把握し21年度よりさらに出席率の向上に努める。

イ 実社会でも適応できるようにルール遵守を徹底し、規範意識の向上を図る。

(3) 学習活動や諸活動をとおして人間関係力を向上させ、自立心の育成を目指す。

ア 学校行事、ホームルーム活動へ積極的に参加をさせ、集団の一員としての自覚を促す。

イ 閉課程記念事業をとおして、北高生の一員であることを自覚させ母校を愛する気持ちを育てる。

ウ 生徒会行事をとおし、計画・運営など生徒主体の活動を促すことで自ら考え行動する力を養う。

エ 月に1回実施される生徒に関する情報交換会をとおして、特定の教員に負担がかからないように教職員全員でサポートする。